



池戸一成 後援会 会報 しぶがき通信

新年号

発行日：令和4年1月

発行者：池戸一成後援会事務所

各務原市蘇原柿沢町1-15

TEL：371-2749

HP：http://ikedo.info/



育休退所を見直し(保育所入所の課題) ～議会での質問と答弁～

第2子を出産した親が育休を取得した場合、保育所に通う上の子は退所しなくてはならないという『育休退所のルール』がある。仕事に復帰する場合、退所させられた上の子も数カ月後には保育所に再入所することになるが、元の保育所に戻りたくても年齢クラスに空きがなければ戻れない現状がある。また、保育所の入所調整の基準としてポイント制があり、これまで育児休業終了後の再入所する際のポイント加点が低く、慣れ親しんだ同じ保育所に再入所できないケースも見受けられた。

問 第2子以降を出産した際の育休退所制度の見直しを。

答 これまで育児休業の取得を理由に毎年およそ40人から50人が退所されており、3歳未満児の入所継続を求める声があった。予定している6つの地域型保育事業所が全て開設すると必要な定員が確保できることから、令和4年4月以降は、保育所等を継続利用しているなどの条件を満たす3歳未満児の入所継続ができるようにする。



問 再入所の際の入所調整におけるポイント制の見直しを。

答 育児休業の取得に伴い一度退所し、育休明けに再入所する場合においてはポイント加点により入所調整をしていた。しかし、ひとり親世帯や児童が3人以上いる多子世帯など、その他の理由で加点される方もあり、必ずしも育休明けの方が優先されないケースがあった。令和4年4月入所分の調整からは、育休退所の場合の加点を引き上げ、元の保育所に優先的に入所できるようポイントの見直しを行った。

3回目コロナワクチンの接種 ～議会での質問と答弁～

感染力が強いと言われているオミクロン株が日本でも確認され、国は「最悪の事態を想定した危機管理」として、入国禁止措置に踏み切るなどしている。そのような中、12月1日より、ワクチンの3回目接種が始まった。まずは医療従事者を対象としているが、令和4年からはいよいよ高齢者への接種が始まると聞いている。2回目接種から原則8ヶ月以上の間隔とするも例外的に6ヶ月に短縮できること、ワクチンの種類に対しての交差接種が認められること、さらに、未接種の5歳から11歳に向けた接種を3回目接種と同時並行的に進めることなど、複雑な接種体制になると思われる。



問 3回目接種に向けた本市の方針は。

答 本市には、2回目の接種を完了した18歳以上の市民が約11万人いらっしゃり、12月以降に順次2回目接種の完了から8ヶ月を経過することになるため、市医師会等とも協議の上、全ての対象者に3回目の接種が出来るよう、公共施設等を会場にした集団接種と各医療機関による個別接種を実施すべく準備を進めている。

1. まずは、コロナウイルス感染症リスクの高い医療従事者やクラスター発生の可能性が懸念される高齢者入所施設入所者等について、前倒し接種ができるよう準備を進めている。
2. その後は、国からのワクチン供給状況次第となるが、一般の高齢者の接種について可能な限り前倒し接種を進められるよう準備していく。
3. 既に国からは3月迄の追加接種にかかるワクチンの総供給量が示されている。(内訳はファイザー社製ワクチン約6割・モデルナ社製ワクチン約4割)最大で約4割の方が1・2回目接種時のワクチンと3回目接種時のワクチンが異なる交差接種となる可能性がある。この交差接種については、既に米国を始め多くの国で実施されており、同種接種と比べて安全性・有効性には差が無いものとされていることから、本市の集団接種会場ではモデルナ社製ワクチンを利用することを予定している。



問 5～11歳への接種に向けた本市の方針は。

答 令和3年11月16日に厚生労働省からの通知があり、小児用ファイザー社製ワクチンが薬事承認された場合、法令改正などを経て、早ければ令和4年2月頃から5歳以上11歳以下の小児を対象とした接種が可能となるため、新たな接種体制確保の準備を進めるよう求められた。

1. 小児に対しても2回の接種を行う。
2. 既にファイザー社との契約は締結されている。一般接種用のファイザー社製ワクチンとは、薬剤の種類や薬量が異なる。
3. 副反応が生じた場合の適切な初期対応が求められているため、市と市医師会等との協議の上、基礎疾患等があり医学的に優先接種すべき小児はかかりつけ医での個別接種を第一とし、その他に早期接種を希望される小児に対しては、新しく小児接種専用の集団接種会場を設ける予定である。



注)コロナワクチンに関する情報は12月の議会答弁時点のもの。最新の情報は『市ウェブサイト』でご確認ください。

コロナ後のまちの元気「新年度予算に反映」(ポストコロナ) ～議会での質問と答弁～

オミクロン株と命名された変異株が確認され各国で感染が拡大する中、世界的な警戒対象となり、先行き不透明な状況となっている。その一方、国内や県内においては第6波への懸念もぬぐえない中ではありながらも、今のところ感染者は低い水準が続き、コロナに警戒しつつも社会経済活動の再開に向け動き始めている。

これまでも経済危機に直面する事例は度々あり、記憶に新しいところでは、リーマンショックや欧州債務危機などの世界規模の金融危機が経済的に影響したことがあった。それらは金融不安が引き起こした需要性ショックといえる。一方、新型コロナウイルスの感染拡大は、人の移動や接触・対面型のサービス消費といった需要を抑制するとともに、生産活動などの供給活動も抑制するという特異なショックを引き起こした。

問 市内の社会経済活動の状況をどのように把握し分析しているか。

答 市内商店街振興組合・市観光協会・各務原商工会議所の業種部会など、様々な業界の団体の皆様とコロナ禍による事業活動への影響や最近の状況、今後の展望や課題について意見交換を行い、コロナ禍による影響が様々な業種、事業所に広がっているという現実を把握している。

- 【製造業全体】一部の業種では持ち直しの動きが見られるものの、半導体や部品等の供給不足による生産活動の停滞や原材料価格の高騰による収益悪化が懸念される。
- 【航空宇宙産業】世界的な旅客需要の激減に伴い航空機の需要低迷が続いており、一段と厳しい状況にある。
- 【小売業】観光地や業務用の商品を扱っている事業所では売上げが落ち、厳しい状況となっている一方、スーパー等への商品を扱っている事業所では、巣ごもり需要などにより売上げが伸びるなど、2極化している状況である。
- 【飲食業界】宴会需要の比率が高いところは影響が未だ大きく、その影響は飲食店へ食材等を卸している業界へも波及している。
- 【観光・行楽】回復傾向にあるが、高速道路を使用する往来には回復の鈍さを感じられ、人流回復には時間がかかっている。
- このように、コロナ禍による影響は、業種ごとに一律ではなく、規模や扱うサービス等により差がある。
- 様々な支援施策を最大限に活用され、状況を打開すべく果敢に挑戦されているとの声がある一方、感染拡大防止のための要請と相まって支援施策の手が届かない部分がある。



問 まちの元気のため、どのような取組みを考えるか。新年度予算にはどう反映させるか。

答 「市内消費の活性化」・「ものづくり企業の維持・強化」・「賑わいの創出」の3つの柱を重点に取り組んでいきたいと考えている。

➡ 市内消費の活性化

- キャッシュレスポイント還元キャンペーン事業を実施。これは令和4年1月7日から2月6日までの間に市内飲食店・交通事業者でauPAY・d払い・PayPay・楽天ペイの4つのキャッシュレス決済を利用した方に支払金額の最大20%相当のポイントを還元していくもの。
- 「(仮称)KAKAMIGAHARAFUNDING！～ららちチケット2nd」を実施。これはクラウドファンディングサイトを通じて、コロナ禍を乗り切ろうとする市内事業者への支援を募るもの。実際に皆様に支援をいただくのは令和4年5月からとなるものだが、今後実施が予定されている他の事業の先陣を切って実施する。

➡ ものづくり企業の維持・強化～「航空宇宙」・「新ビジネス創出」・「DX」の3つの重点政策。

- 「航空宇宙」～岐阜県と連携して取組んできた展示会出展による販路開拓支援や、航空宇宙関連産業の新たな分野への展開支援を継続する。宇宙産業への進出に向けた宇宙プロジェクト研究会を引き続き開催する。
- 「新ビジネス創出」～ものづくり中小企業の事業再構築を支援する。昨年度から継続実施している中小企業ブランディング事業の成果が形となりつつあり、次のステップとして新たに新商品を開発した事業者の販路開拓支援に取り組む。
- 「DX(デジタルトランスフォーメーション)」～IT専門家の派遣事業やIT研修、IT導入補助金を活用する事業者の補助事業や企業のデジタル化促進に向けたセミナー等により、市内企業の「DX」の取組みを更に推進していく。

➡ 賑わいの創出

- これまで市民の健康と安全を最優先し多くのイベントを中止したため、様々な交流が停滞し、総合計画の後期基本計画で掲げる「つながりづくり」のきっかけや機会が失われることとなってしまった。
- まだ予断を許さないが、トンネルの先により希望の光が見えてきた。市民が「つながりづくり」の機運醸成を図り、人の往来、そして、まちの賑わいを取り戻すため、今までにない柔軟さや新しい発想で、アフターコロナを象徴するようなイベントになるよう見直しを行い、再開していく。
- これは、新たな挑戦でもある。既に、「おさんぽマルシェ」と銘打って、空宙博や鵜沼宿などの観光施設において、多種多様な出店の機会を創出するとともに、「お散歩」と「マルシェ」の融合という新たな空間を提供し、来場者の皆さんからたいへん好評を得ている。

